

**2018J2** ■順位表■第27節【暫定】

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

(\*は1, #は2, 消化試合が少ない)

1	松本	53p	+16	41	25	HO
*	2	町田	49p	+13	44	31 H●
	3	大分	47p	+12	46	34 A● H●
	4	東京V	45p	+11	38	27 A△
#	5	福岡	43p	+9	35	26 A●
*	6	横浜FC	43p	+6	35	29 H● A●
*	7	山口	42p	+2	44	42 H△
	8	大宮	41p	+8	40	32 AO
*	9	岡山	38p	+5	27	22 A△
*	10	徳島	37p	+3	27	24 H△
*	11	山形	37p	+2	31	29 A●
	12	水戸	36p	+3	33	30 HO
	13	金沢	36p	+1	35	34 H●
	14	甲府	34p	+8	43	35 H● AO
	15	千葉	34p	-6	46	52 AO
	16	岐阜	32p	-4	34	38 --- ---
	17	栃木	32p	-8	25	33 H△ A●
	18	愛媛	30p	-11	22	33 AO H●
	19	新潟	29p	-11	29	40 HO
*	20	讃岐	24p	-23	23	46 AO H●
	21	熊本	23p	-18	32	50 AO
*	22	京都	19p	-18	20	38 A●

**次回HomeGame**

第29節 vs. ロアッソ熊本

8/19(日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

**大酒場 ホームラン**

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

**Living in Woods**

本庄工業株式会社

http://www.honjo-woodream.com/

**湯麺 戸塚**

店主：戸塚 哲也

瑞穂市穂積 1596-4

11:30~14:00/18:00~21:00(L.O.20:50)

お休み情報 twitter: @Tanmen\_Tozuka

☆☆☆各務原店もよろしく!!☆☆☆

today's guest : **京都サンガ**

2017 J2 14勝15分13敗 勝ち点57:12位

直近の対決と結果

2018/03/17

J2 - 4 節@西京極

**京都 2-1 岐阜**

古橋亨梧 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	京都サンガ
2018/08/04 J2 - 27節@栃木グ 栃木 4-1 岐阜	2018/08/04 J2 - 27節@西京極 京都 1-0 山形
2018/07/29 J2 - 26節@長良川 岐阜 0-2 大分	2018/07/29 J2 - 26節@西京極 京都 0-1 東京V
2018/07/25 J2 - 25節@長良川 岐阜 2-3 讃岐	2018/07/25 J2 - 25節@町田 町田 2-1 京都

●シーズン前半戦をクラブ最高となる11位で折り返したFC岐阜。しかし、後半戦は苦しい戦いが続いている。7/29(日)第26節・ホーム大分戦では、課題である守備の甘さから前半に2失点。後半も決定機を作ることができず、結局は0-2とホームで完封負けを喫してしまった。これで3連敗、6/2(土)第17節の水戸戦(4-0)以来、ホーム戦5試合未勝利(1分4敗5得点7失点)とトンネルに入ったチームに、さらに激震が走った。8/1(水)に、チームトップの11得点を挙げていた若きエースの#11古橋亨梧がJ1・神戸に移籍。攻撃の柱を失ったFC岐阜は、8/4(土)第27節・アウェイで栃木と対戦。しかし、この試合もセットプレーでの守備の甘さが出て先取点を奪われ、直後に#30中島賢星のJ初ゴールで同点に追いつくが、再び失点を重ねてしまい、1-4と大量失点で敗れてしまった。

これで4連敗となったFC岐阜は、さらに順位が下がり、現在は16位。シーズン当初の目標であった一桁順位である9位(暫定)・岡山は勝ち点差6に収まっているが、プレーオフ圏内である6位(暫定)・横浜FCまでの勝ち点差は11と、大きく離されてしまった。そして、J3降格圏である21位・熊本との勝ち点差は9離れているものの、19位・新潟には勝ち点差3の射程内に捉えられている。

これまでの後半戦の6試合で、チームが1勝5敗7得点15失点と大きく調子を崩している要因は、やはりリーグ戦が一巡して、相手に研究され、攻撃でも守備でも前半戦での良さが出せていないことだろう。特に守備面では、セットプレーでの失点が目立つ。また、真夏の暑さや蓄積した疲労のためか、選手たちの動きに精彩が欠けているようにも感じる。あらためて、チーム全体でひたむきに走る意識や、攻守の切り替えの速さ、シュートを撃つ意識などを上げることで絶対に必要だ。そして、スタメン以外の選手層の底上げも重要だ。夏の移籍で、#20禹相皓(→愛媛)と#11古橋亨梧(→神戸)はチームを離れたが、新たに#34北谷史孝(長崎→)、#33ミシャエル(ブラジル→)が加入、そして来季の加入が発表されている#29村田透馬が特別指定選手としてプレーすることとなった。彼らの活躍に、そして今までのメンバーの奮起にも期待したい。

さて、今節の対戦相手は、現在22位の京都サンガF.C.だ。今年は布部陽功監督2年目体制だったが、最下位に沈んだGW明けに退任が発表され、コーチだったジェロヴスキーが監督に昇格。しかしその後も降格圏を脱することができずにいる。直近でも4連敗するなど調子を取り戻せずにいるが、前節は山形に1-0で勝利。これを浮上の切っ掛けにすべく、死にもものぐるいで向かってくるだろう。しかし、この1戦を浮上の切っ掛けにしないのは、岐阜も同じ事だ。この試合、勝たなくてはならない。通算対戦成績では岐阜の3勝4分8敗・13得点23失点と大きく負け越しているが、ホーム戦では3勝1分3敗・9得点11失点と、互角の成績だ。前回・昨年のホーム戦では3-2の逆転勝利だった。今節はしっかりと勝ちきたい。

京都の要注意選手は、まずは現在7得点、ここ5試合で2得点の#9レンツ・ロペスだろう。また、#22小屋松知哉は3得点の内、2得点を前回対戦の3/17(土)第4節に挙げており、気をよくしているだろう。そして京都は、夏の移籍で現時点7選手を獲得。その中には、J1・仙台から期限付き移籍した、昨年は“岐阜の心臓”と呼ばれた#44庄司悦大がいる。彼と対戦するのは複雑な心中だが、しかし庄司には「昨年とは違う」岐阜の姿を見せつけなくてはならない。また、#15田森大己や#16福村貴幸そして大木武監督などにとって京都は古巣のチーム。いつも以上に熱い試合となることだろう。ここが踏ん張りどころだ。気持ちを切り替えて、今節こそ、ホーム・長良川競技場で勝利しよう。そのためには、僕ら岐阜サポーターも最後まで勝利を信じて、厳しいコンディションの中で戦う、岐阜の選手たちの背中を押す拍手と声援を送り続けよう。そして今節こそ、約2ヶ月ぶりとなるホームでの『万歳四唱』で選手たちと勝利の喜びを分かち合い、後半戦復調の切っ掛けとしよう。(ささたく)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休:月曜日

**投稿募集!!**

gidaidohri@gmail.com

## 【第26節】岐阜0-2大分

●7/25 (水) に21位・讃岐に2-3で敗れ、中3日で5位・大分との対戦。昨年もシーズンの折り返しぐらいに調子を落として、そのまま何となく勝ったり負けたりでズルズルと順位を落としてしまっ…というイメージが僕には残っているのだけれど、その下降カーブが1か月ほど遅れているだけなのか。少し心配になっているのは僕だけだろうか。さて先発は…おや、今回もCBの一角は#3竹田忠嗣じゃなくて新加入の#34北谷史孝なのね。3連戦だから休ませるのが主目的で#34北谷を起用して、今節は#3竹田に戻すのかと思ってたので、少し意外。夕暮れ迫るナイターとはいえ、全国ニュースで常連となっている(苦笑)今年の岐阜の酷暑。まだ蒸し暑い中で、前半は様子見か…と思っていたが、前半から試合は動く。19分に、#27三平和司にDFラインの裏を抜け出され、そこにシュート性のパス(?)が来て、GKと1対1。あれは#25ビクトルでもノーチャンスだわ……。それにしても、“さんぺー”には前回も決勝点を決められているのだし、もっと注意しておかないと…(溜息)。そして、2失点目は、またしてもCKからの失点。確かに中3日でセットプレーの守備を再構築するのは難しいことだとは思っているけれど、何と云えばいいのか…激しく競り合った上で失点しているんじゃないかと、“あっさり”失点しているように見えて、それが選手もサポも気持ちを削がれてしまうというのか…。後半にいきなり#10ライザに替えて#26長沼洋一を投入したので、はて彼はどこの位置に…ええっ、2トップ!?これまで頑なに「4-4-3」システムを貫いてきた大木監督が、2トップ…僕は「4-4-2」かと思ったけれど、試合後にサポ仲間に聞いたら「3-5-2」だったとのこと。いずれにせよ、勝つためにシステム変更もして臨んだ後半だったけれど、いかんせん、選手たちがシステムに慣れていない(苦笑)。暑さも手伝って、パス回しの速度も上がらないので、攻撃の糸口がなかなか掴めない。逆にカウンターを受けて、何とか追加点を許さずにしのぐ展開が続き…0-2で試合終了。確かに今年の大分は強いし、しかも過去の対戦成績でも1勝しかできておらず、相性もよくない。だけど、そんな相手に勝てば、チームの大きな自信になってくれると信じていただけに、残念な敗戦だった。(ささたく)

●う〜ん……。なかなか勝てない。長良川で勝てない。大分に勝てない。ナイナイ尽くしだったなあ。しかし、あれでは勝てない。ピッチの上には22人の選手がいた。だけど、ウチが10人で大分が12人だった。でなけりゃ、ウチが9人で大分が13人だった。それくらい運動量に差があったね。最終ラインでのパス回し。横へのパス。それはいい。ただ、それに意味を持たせられなければ、タダのジリ貧。カウンターなのに走り切れなかったり、横パスで空けたハズのスペースに走り込めなかったり、自ら勝負できなかったり。確かにアンラッキーなオウンゴールもあった。だけど、その前のプレーはPK取られてもおかしくなかった。だからといって、ご丁寧に自ら自陣のゴールに入れなくてもいいんだけどな。北谷は、伊奈波神社にでも参拝に行った方がイイと思うよ。まあ、冗談はさておき、返す返すもライザのアレはもったいない。何が何でも決めなきゃ、だ。先制点が欲しかった。ただ、アレが決まっただとしても、よくて引き分けだったかもしれない。そんな内容だったと言ってしまったら、余りにもネガティブ過ぎるか。ガムシャラに走り勝つ。ウチはそんなスタイルではないが、相手を走らせ、その空けたスペースを支配出来なければ試合にならない。とはいえ、洋一を入れて3バックにしたこともわからなかった自分も猛省は必要。「福ちゃんがちっとも戻らねーなあ。北谷が左SBでてんでこ舞いだ。真ん中がタモとアベちゃん。洋一の右SBはどうなんだろう?」と思ってました。こんな程度の認識ですよ。ヒドイもんです。

とにかく、昨季の長良川での徳島戦を彷彿とさせるような試合だった……というのが自分の感想。しかたない、忘れて切り替えるしかない。そう思っていたんだけどなあ……。違う意味で、全く想像もしていなかったことで(いつかは……とは思っていたんだけど)忘れられない試合になってしまうとは、ね。試合後のアノ挨拶が、深々と腰を折り、しばらく微動だにできなかったアノ最敬礼が、どういう意味を持っていたのか。あの時には少しも気づかなかった。ただ、「そこまで背負わなくていいよ。次、見せてくれ!」と思っていた。「嘘だと言ってよ……。」という気持ちは募るが、それでも、ヤセ我慢をしてでも笑って送り出すしかない。『岐阜発、神戸経由で代表へ!そして、世界へ!』。ありがとう、がんばれ、キョーゴ!楽しみにしてるゾ!そして、またいつか……。 (ぐん、)

●試合が終わってからの選手の挨拶。キョーゴのそれが他の選手より長く、そして深かったのは、そういうことだったんだなあ……と、いまになって思う。悔しいことだろう。岐阜での最後の試合、なんとしても勝ちたかっただろう、ゴールを決めたかっただろう。でも、この日の大分はそんな感傷は許してくれなかった。

前半から守備においては5バック。ピッチを縦に細く5等分し、そこに1人ずつ並べて岐阜のFW3枚MF2枚の攻撃陣の進入ラインに蓋をする。岐阜の4-3-3の長所は全部中和された。岐阜の選手は相手陣内に入れられないから後ろでまわすしかない、そしてそこで奪われる。大分のカウンターの開始地点はセンターライン付近が多かったんじゃないか。前半は0-2で終わったが、そのまま行けばもっと深く酷い惨劇が待っているように感じた。

で、後半。いやあマジで驚いた。3-5-2。大木監督が4バックを捨てた!個人的には「動いているのは太陽じゃなくて地球の方なんだってばよ!」と言われたくらいの衝撃。これまでも試合終了近くに暫定的にやったことはあったけれど、後半開始から3バックなんて。これで大分が並べた5人の守備(待ち構え)陣が1~2人「ひとあまり」状態になった。サッカーは11人と11人の競技、DFラインにひとが多ければ当然その前のひとは少なくなる。岐阜が中盤でボールを持てるようになったのは、そのためだ。しかし、残念ながら大分はこっちの3-5-2につきあってシステムを変えてはくれなかった。中盤で優位に立たれてもスペースさえつぶしておけば、ペナルティエリアの外から正確に強いシュートを撃てる選手がそう多くない、しかも空中戦にも強さがない岐阜の攻撃なら失っても1点……という読みだったのかも。前半が2点差でなかったら片野坂監督も違う動きをしてくれたかもしれないが、かくして試合は2点差のままで終了した。

大木監督の採用した3-5-2は、おそらく「緊急事態用」として練習しているスタイルではないだろう。相手カウンターを凌いだあとのDFラインの動きがぎこちなくて、どうやってビルドアップしていいかわからない、そんな風に見えたから。だから、「戦術的打開策」というよりは「ギブアップ」に近かったのかもしれない。これまで培ってきた4-3-3ではこの相手ではどうにもなりません、と。そこまでの、この試合をなんとかいい方向に持っていきたいという意志は嬉しいのだけれど、同じリーグで戦う「同格」の相手にそこまでしないといけないという現状。そして、柔軟さをまったく売りにしてこなかった頑なな職人スタイルの大木監督の変化。古株の岐阜サポの友人が言っていたのは「天ぶら一筋でやってきた和食料理店の大将が、売り上げ低迷で『エビフライ始めました!』と言っているようなもの。たしかに天ぶら(衣が小麦粉)とフライ(衣がパン粉)は違うけれど、結局はどちらも揚げ物(パスサッカー)だ」。キョーゴの岐阜での最終戦という特別な事情を抜きにして、いろいろと考えさせられる試合だった。キョーゴの最終戦だとわかったのは試合終了の数日後だけどね(苦笑)。(吉田铸造)

## 【第27節】栃木4-1 岐阜

●エース・#11 古橋亨梧の移籍発表から3日。3連敗中に名実ともにチームの主軸を失って、どうチームを立て直すのが注目される一戦。しかも下位チームとはいえ、5戦無敗の相手との対戦。その栃木は5バックと明らかにカウンター&セットプレー狙いで、対する岐阜は右に#9 山岸祐也を置いて変わらず3トップで臨む。

しかし…大木監督も試合前に話していたけれど、守備の甘さが改善されていない。CKで失点、そして、残念ながら見慣れた光景になってしまった、左サイドを崩されての失点。#11 古橋— #16 福村の左サイドは岐阜の攻撃の軸だったけれど、その分、#16 福村が上がった裏のスペースを、どのチームも徹底的に狙ってきていて、そこから失点を繰り返してしまっているように思う。

そして、栃木のようにブロックを固める守備に、攻撃陣も（同点に追いついた場面は除いて）崩すことができない。パスで駄目なら、スピードとフィジカル頼みのゴリ押し突破ができれば…しかし、そういった選手は残念ながら岐阜には多くない。それに、若い選手が多いから、こういった苦しい展開の際に、チームを鼓舞してまとめるベテラン選手が不足しているんだと思う。若い選手たちが育つのは喜ばしいことだけれど…。

これで4連敗。しかも、合計12失点と大量失点での4連敗。守備の立て直しは急務だ。（ささたく）

●恋に別れがあるように、この日が来るのが怖かった。ありがとう、友よ。さらば……、という歌謡曲が昭和の頃にありました。そして、僕らのFC岐阜にも、とうとうその日がやってきました。新加入以来、スタメンを張り続けていた彼が、スタメンどころか、ベンチにもいないという状況。そういう試合で見たモノは、やはり、今季の総得点の半分以上に絡んでいた選手がいないという現実でした。

試合が終わった後、ゴール裏の仲間達が、選手達を乗せたバスが出て来るだろうという場所に向かいました。誤解が生じないように記しておきますが、いわゆる『バス囲み』をするために向かったワケじゃありません。檄を飛ばしに、そして、「共に闘う！」という気持ちを伝えに行っただけです。それが、ウチのスタイルです。結局、タイミング的に、場所的に声を伝えることはできなかったようです。まだ、スタジアム周りが明るい時間帯でした。周囲では蝉が鳴いていました。その中に、カナカナカナと、ひぐらしの声も聞こえてきました。秋は遠くない。今季も試練が待っているようです。

試合の内容については、あんまり書きたくないような（苦笑）。とにかく、勝たなければいけない試合でした。大黒の決定力は相変わらず。特に、2点目はどうしようもなかった。先制点は、またしてもセットプレー。決めたのはDFのパウロン。つまり、攻守の要に決められたワケで、先制されたという面から見ても、栃木の描いていた図面通りに持って行かれたところでしょうか？お手上げです。

ウチの選手も頑張ったけど、3点差がついてからでは、ね。高さも備えた相手に引いて守られては攻略するのは困難を極める。しかも、前掛かりになる分、いつもより裏のスペースが空くワケで、カウンターも食らい易くなってしまふ。あえて言うなら2失点目でしょうか。せつかく、賢星のJ2での初ゴールが決まったのに、その数分後でしたから。ウチも先制された直後に追いついたのに、流れをつかめないままだったのが残念でした。

それにしても、後半が始まってから、ずっと長回しで歌い続けたゴール裏と叩き続けたリズム隊には敬意を表します。特にリズム隊はキツかっただろうな。スティックを持つ手を変えながら、途中でリズムを取りそこなうような場面もありましたが、最後まで叩き続けてくれました。選手と共に最後まで戦う姿を目の当たりにしたという思いでいっぱいになりました。状況は重苦しいけれど、自分にも応援を止めるという選

択肢はありません。今節も重要な一戦になります。試合が終わるまで精一杯の後押しをします！（ぐん）

## 古橋亨梧選手の移籍に寄せて。

●古橋亨梧の移籍が決まった。もう来年うちのクラブに留め置くことは無理だろうと思っていたのでそれなりに覚悟は出来ていたけれど、3連敗と明らかに下降線を辿っている現状で去られるのはかなり痛いし辛いし、でも古橋本人のステップアップなのだから喜ばしいことではあるし、そしてうちのクラブが選手を育てて売るといふ事が出来たわけでもあるし、いろんな感情がないまぜになっている。

いつも試合の翌日の練習では、他のスタメン組は早めに切り上げて帰っていくのに、控え組のTM前の練習が始まってボール拾いとか手伝ったり、ファンサはいつでも丁寧だったり、いつも好印象でしかなかった彼。

今年は庄司やシシーニョ、大本らが去り、自分がやらなきゃという思いがものすごく強かったんだと思う。敗れた時いつも深々と礼をする古橋が大分戦の後の挨拶はいつも以上に深々と頭を下げていた。いま思えばそういうことだったんだなと。

これからはヴィッセル神戸の古橋亨梧。求められるプレーのスキルは今以上に上がると思うけど、ノエスタで、J1のピッチで存分に暴れまくってほしい。古橋がイニエスタやポドルスキと一緒にプレーするかもなんて思うと、それはそれで胸熱なものがある。

そしていつかSAMURAI BLUEのユニフォームに袖を通す日を楽しみに待っています。その時はユニ買うから！これからの君のサッカー人生に幸多かれと。

（リベロ）

●予想していなかった訳じゃない。昨年は大卒ルーキーながら全試合にスタメン出場して6ゴール。2年目となる今シーズンも、これまで全試合にスタメン出場して11ゴール。6試合連続ゴールというクラブ記録を更新し、5月には、クラブ初となるJ2月間MVPにも輝いた選手。半分本気、半分冗談で「やばい、J1クラブに存在がばれた」「来年は抜かれる」「ついに岐阜から代表が」などと、サポ仲間たちと話していた。その危機感が徐々に僕の中で現実味を帯びてきたのは、J1クラブ関係者（と僕が感じた人たち）が岐阜の試合を見に来ていることに気付いた頃から。そして、昨年からクラブに入る放映権料が増えて、いわゆる“D A Z Nマネー”の影響で、シーズン前の移籍も活性化していたけれど、この夏の移籍は、W杯後の代表クラスの移籍もあって、クラブの顔となるような選手たちが次々と移籍していた。それを横目で見て、僕は心中で戦々恐々としていた。そして、前日の7/31、山口で今シーズン全試合にスタメン出場して10ゴールを挙げている小野瀬康介がガンバ大阪に移籍することが発表された時に、僕はある程度、覚悟を決めていた。

悔しくない訳じゃない。チームにとって大打撃だ。しかし、チームにとって大事な選手でも、J1有力クラブから誘われたら、シーズン途中でも移籍をするというのが、僕らのクラブの“現在の状況”だ。練習環境など、まだまだ足りない部分が多い。逆に言えば、彼にとっては絶好のチャンスだったはずだ。地元の有力J1クラブ、しかも世界トップクラスの選手が夏に加入したことで、全国で最も注目されていると言っても過言ではないクラブ。そんな選手たちとプレーすれば、彼はもっとすごい選手になるだろう。僕らの夢が実現に近づくだろう。彼が“日の丸”を背負う姿が。

だから、行ってこい、“俺たちの”古橋亨梧。お前なら、J1のピッチだって切り裂けるはずだ。

（ささたく）

